

新聞からたどる黒埼の歴史
明治時代、大野にいた木山六兵衛という人のおはなし。

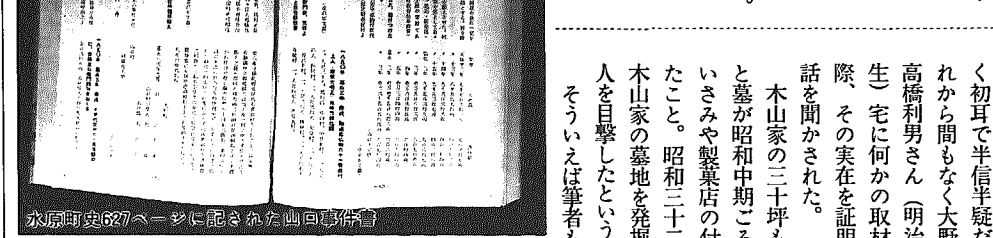
大野の俠客木山六兵衛
明治三十二年(二八九九)八月四日記事
曾野木村の博人殺し

曾野木村にて博人牧野吉太郎が何者にか殺害されし事は昨紙に於て報道を經しが右吉太郎と言へるは、越後に有名なる西蒲原郡大野村の木山と稱する博人中の大親分の後を襲いたるもの由にて、子分の百人も持ち居るものなりという。また加害者は槍を以て吉太郎を突き殺したるものならんという。

明治二十九年十月三十日記事
二俠客互に縄張りを争う。
目下本県下に於て長勝差と稱せられる俠客は西蒲原に於て木山の六兵衛、観音寺の久左衛門、古志郡に於て長岡の綱助、刈羽郡に於て柏崎の花川等その最なるものにていずれも多くの子分を有し、親分と仰がれ居ることなるが……(後略)

明治三十二年八月四日「曾野木村の博人殺し」。明治二十九年十月三十日の「二俠客互に縄張りを争う」の一記事は幕末から明治にかけて、このころ大野に木山という博人の親分の居たことを伝えている。しかし、大野に昔、百人もの子分を持つやぐさの親分が居たということを知っている人はもうほとんど居ない。そこでこのことを古老よりの聞き取りや、他に資料を求めて検証し町の記録として残したい。

互に縄張りを争う」の一記事は幕末から明治にかけて、このころ大野に木山という博人の親分の居たことを伝えている。しかし、大野に昔、百人もの子分を持つやぐさの親分が居たということを知っている人はもうほとんど居ない。そこでこのことを古老よりの聞き取りや、他に資料を求めて検証し町の記録として残したい。



永原町史627ページに記された山崎事件

く初耳で半信半疑だった。それから間もなく大野仲町の故高橋利男さん(明治四十三年生)宅に何かの取材に訪れた際、その実在を証明する次の話を聞かされた。

木山家の三十坪もある墓地と墓が昭和中期ごろまで七区いさみや製菓店の付近にあったこと。昭和二十二年頃木山家の墓地を築造している人を目撃したというのである。そういえば筆者もたしかあのあたり丘のようなものがあり、そこに墓があったことを思い出した。しかも、高橋さんは、大野を離れて久しい木山家の末裔

の人たちが、その墓を移転するため先祖のお骨をとり来たのを見ていたのである。また、高橋ハルノさん(明治四十年生)は大野新田町の下(鳥原新地あたり)に、今も吉原の俗称地名が残っているが、そこに木山屋という遊廓があった。(木場の郷土史二六一頁に木山屋通ればお駒が招く……と、大野に遊廓があったことが記されている)そこが木山一家の資金源で本拠だったのだろう、と言っている。(他にも遊廓について何人かの証言がある)。

さらにハルノさんは、実家だんごやで十四、五歳のころ、蒸気場小路の風間せんべい屋の所に木山屋の経営する射的場や、吹き矢などの店があったという。

取材を続けるうちに木山屋の実在したことを証明する記録(古文書)が水原町史(水原編年史 六一七頁に載っている)がわかった。それは一八五〇年嘉永二年庚戌(垂沢文書)で、山口陣屋支配所蒲原郡大野町の事件書、大野町木山屋吉兵衛より弟栄八事件に付山口役場へ差入候証書巻通である。本文は

御座候処居宅より逃出し候(中略)私共引受差出申す可候間比度栄八心得違之儀幾重にも御慈悲御頼取上下され度願上奉り候
大野町 吉兵衛
嘉永三戊辰九月 日
山口村引受人 民藏
右同職 五郎助
山口村御役人中
弟栄八が御役所より疑いあり御役人がお召捕になるところ逃走致したこと。栄八儀御村方の人別帳に無いものにて当人のため私共にて栄八を捜し出し、帳入(人別帳に記載する)致させ度三日間召捕御猶予をお願い申し上げお許しをいただき有難く存じます。右の手續き済み申上はきつと 改心致させます。そして今後当人が間違いを起こし御厄介御迷惑をおかけするようなことがあれば私共が責任を持ちますので比度の栄八の心得違い、何卒お慈悲をもってお許し下さるようお願い申し上げます。

と大野町の吉兵衛と山口村の二名の連名で提出されたものである。この文面からすると、栄八は山口村で何かの罪を犯したが大した罪でなかつたものと思われる。大野は新発田藩の分家池の端溝口家(旗本五千石)の領地で、今の豊浦町池の端にあった代官

手をつなぎ みんなで伸ばそう若い芽を

第9回 青少年健全育成大会開催(2月26日、改善センター)

黒埼町青少年育成町民会議(鈴木昭会長)では、青少年の健全な育成のため、さまざまな年間事業を行っています。二月二十六日(土) 農村環境改善センターでは、今年で第九回目を迎えた青少年健全育成大会が開かれました。

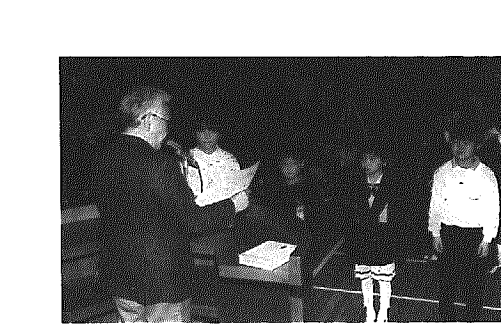
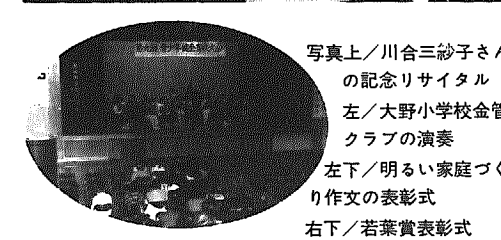
大会の始めに鈴木会長が、「今年も明るい家庭づくりの作文を募集したところ、多数のご応募をいただきありがとうございます。この大会が皆さんのお子さん、お孫さんのために役立つように望みます」とあいさつしていました。そのあと、活動経過報告や

「若葉賞」表彰と「明るい家庭づくり」作文入賞者の表彰が行われました。(入賞者等は下記のとおり)。
その後、大野小学校金管クラブの演奏、そして記念リサイタルとしてソプラノ歌手川合三紗子さんの歌声を聞き今年度の青少年健全育成大会は幕を閉じました。

「最優秀賞」(黒埼中一年) 笹川みほ(木場小二年)「おはかのそうじ」
大野裕美(山田小四年)「すききらいをなくして楽しい食生活」

「奨励賞」(大野小一年) しおやあやか(大野小一年)「わたしのかぞく」

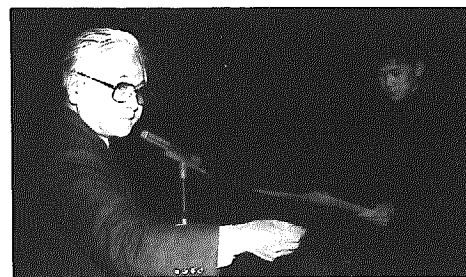
「最優秀賞」(黒埼中一年) 吉村由紀子(黒埼中一年)「私の家族」
「奨励賞」(大野小一年) しおやあやか(大野小一年)「わたしのかぞく」



写真上/川合三紗子さんの記念リサイタル
左/大野小学校金管クラブの演奏
左下/明るい家庭づくり作文の表彰式
右下/若葉賞表彰式

おめでとう 若葉賞
若葉賞は青少年のひごろ目立たない善行や努力行為を賞し、顕彰するものです。今年度は次の二団体、二個人が受賞しました。表彰は、2月26日の第9回青少年健全育成大会で行われました。

- (団体)
・大野小学校二之町子供会 15名 代表者 中原一彦
国道8号線の地下横断道路の清掃奉仕を自主的に親子一緒に継続している。
・黒埼中学校美術クラブ 部員 25名 代表者 中村綾子
北陸自動車道黒埼地内の工事現場の鋼板仮囲いに、コミュニケーションアートを描いて付近住民の目を楽しませたり、国道通過のドライバーの心を和ませたりして地域・学校の美化及び活性化に貢献した。



- (個人)
・高橋一敬、川村好弘(黒埼中学校2年)
不登校の友人を励ますために、根気強く家庭訪問を続けている。
・森 賢(明訓高校3年)
明訓高校野球部で、小柄ながらもレギュラーとなり、平成5年夏の高校野球全国大会に9年ぶりの甲子園出場を果たし、一回戦で勝ち星を挙げた。

